

日大島根桜信会便り

日大島根桜信会便り第27号【通算31号】
 発行 令和2(20)年1月1日
 日大島根桜信会(日本大学通信教育部校友会島根県支部)
 坂本育穂 〒690-0871 松江市東奥谷町256-3
 Tel 0852-25-1419 Email sikutyuan@mable.ne.jp

令和2年の鹿島立ち 謹賀新年



鹿島神宮(茨城県)西之一之鳥居

「西之一の鳥居」は東西南北四鳥居の一つ。高さ18.5m、幅22.5m
 は鹿島神社よりも高い。平成25(2013)年鋼材で旧2.5倍に再建。

昨年いただきました校友皆様
 のご支援ご指導を心から感謝
 いたします。

本年もなにとぞよろしくお
 願い申し上げます。

「鹿島立ち」は、奈良時代、筑紫等の
 要路任務に赴く東国武士等が、道中無
 事を祈って此处から旅だったという。
 祭神フツヌシノ命は、杵築稻佐の浜
 で、タケミカヅチ命と共に大国主命か
 ら国を譲り受けた神(日本書紀)。

令和元年度 日大島根桜信会総会開催ご案内

開催期日 令和2年2月29日(土曜日)
 開催時間 18時(午後6時)
 開催場所 サンラポーむらくも 松江市殿町369 Tel 0852-27-8605
 審議事項 令和元年度 会務報告・決算報告
 その他必要事項
 会費 4,500円
 1,500円 令和2年度校友会費
 計 6,000円

写真撮影

上記の通り支部総会を開催しますのでふるってご出席くださるようお願い
 します。例年、出席が減って来ています。昨年は3名。嗚呼。



それぞれのワン・チーム



出欠はがき締め切り 2月23日

令和元年度(令和2年1月1日現在)校友会費納入の校友ご芳名

井上 明(H28/文) 岩崎 幸夫(S60/法) 大原 義隆(S35/文) 河野 義男(S58/商)
 酒井 實三(H07/商) 坂本 育穂(S47/文) 澤田 寿子(S45/商) 下山 司(H01/法)
 周藤 昇(S53/法) 滝尻行雄(S50/文) 田久和剛史(H20/文) 宮崎 健治(S49/商)
 村上 謙武(H06/経) 毎年のご協力衷心より感謝致します。領収書に換えます。(敬称略・五十音順)

令和2年度校友会費お願いします。振替用紙を同封しています。

年額 1,500円

窓口手数料200円

ATM手数料150円

事務局はATMで納入くだされば50円多く頂けます。

「心字」 浜南学園高校

校に、この春、新しい仲間が加わりました。一つは、飛騨高山にお住まいの本校理事中田金太先生から寄贈されました「心石」です。



「浜南学園
新報」
平成8（19
96）年7月
号より

これは天然のもので、何の細工も施されたわけではございません。写真にありますがように、はつきりと「心」という字が読み取れる大変珍しいものでございます。

この珍しい「心字」石は、現在も立正大学浜南学園高校玄関ロビーにある。同校への問い合わせ及びインターネット情報によると、中田金太氏は現在の岐阜県高山市の（株）飛騨庭石の創立者で、一代で今日の会社を築き上げた立志伝中の人で、「飛騨高山まつりの森博物館」や有名な「祭り屋台」を寄付している。岡崎 功前浜南学園理事長と親交関係があり「心」をモットーとする同校に「心字」が寄贈されたものである。

「浜南学園」は古く「松江日本大学高校」時代から日本大学通信教育部の試験場校であり、その後、「立正大学浜南学園高校」と改称。数年前まで通信教育部分校だった。筆者も指導員として長い期間お世話になった。（坂本）

令和元年度 第39回日本大学通信教育部校友会中国ブロック総会報告

令和元年8月31日(土) 於 山口県山口市山ログランドホテル

- ①島根県の参加者 ◎岩崎幸夫会計担当幹事、坂本育穂島根県支部長
- ②役員改選 ◎次期中国ブロック会長 谷川正徳広島県支部長(坂本退任)
- ③次回(令和2年度)ブロック総会 ◎広島県
- ④中国ブロック役員選考委員(校友会長他本部執行役員を選考審議する委員)

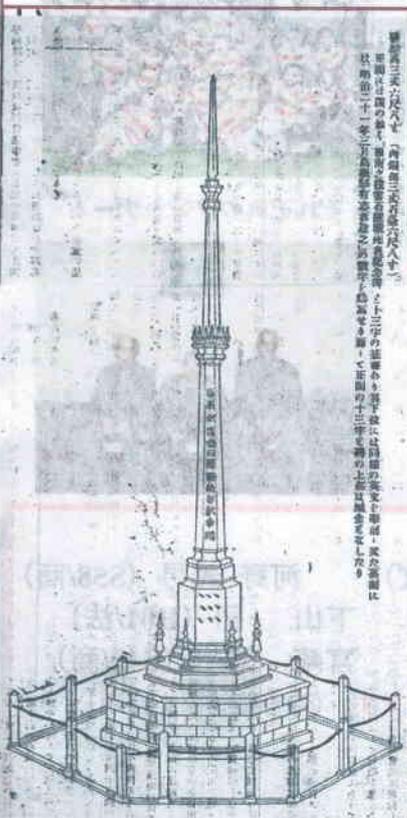
◎安部通弘岡山県支部長。終了後体調不良につき安藤 豊前岡山県支部長に交代。

「通信教育部会報」第96号を同封しています。「2ページ下段」に佐伯山口支部長の報告記事があるので、詳細はご参照ください



○松江城山にあった幻の記念塔

現在の松江城山「興雲閣」は明治 36(1903)年(明治天皇行幸(実現せず)を計って建設されたもので、それまでは明治 21(1888)年に建立された左の如き銅製の塔が空を摩していた。隣には明治 32(1899)年に松江神社が移設創建された。この紀年塔は、台石を含めて総高約 11 m、正式には「西南之役雲石隠戦死者記念碑」で、明治 10(1877)年の西南戦争の島根県出身者 114 名の戦死者(山陰新聞)の慰霊碑で、この碑前で、明治 21(1888)年 5 月 5 日(仏式は翌日)、籠手田安貞島根県知事を祭主として、千家出雲大社国造以下 100 余の神職に県官、武官、議員その他 500 余名参列の下、建碑式及び招魂祭が執り行われた。無類の盛儀に合わせて繰り出した雑踏降りには「県下三国並びに鳥取広島の両県下より出松したる者は其幾千人なるを知るべからず」、同時に市内の旅店、割烹や、貸座敷も満員の盛況だったと山陰新聞は伝える。しかし、この紀年塔も「興雲閣」建設のため天守閣前に移動させられ、次には「直政公碑」建設の為にその場を追われ、城山内の山中にあったというが、終いには太平洋戦争の金属供出によってその運命を終わった。いまは、「興雲閣」左前に、当時の募金趣意と募金者の氏名を刻した石製円形の「特別義捐者」碑が当時のままに再建され、在りし日の面影を僅かに伝えている。(坂本)



昭和33年(1958)年、島根県松江城山に建立された「西南之役雲石隠戦死者記念碑」の複製塔。塔高約11m、台石を含めて総高約11m。昭和33年(1958)年、島根県松江城山に建立された「西南之役雲石隠戦死者記念碑」の複製塔。塔高約11m、台石を含めて総高約11m。

「山陰新聞」、明治21(1888)年5月5日附録